

源氏物語入門—古典は本当に面白い—

藤澤敏行

源氏物語入門

桐壺更衣 六条御息所
明石君を中心に

～京都は本当に面白い～

(これは平成22年現任校のオープンスクールで一般の方を対象とした講座を23年の研究懇話会で発表したものです。パワーポイントを用いています。紙面の都合でスライド数をかなり省略しています。また小さくて見えにくいですが御寛恕お願いします。内容も多く省略しています。)

保護者と話をしている中で源氏物語や京都の話で盛り上がり、オープンスクールで、自分の取りためてきた京都の写真を中心にした、一般の方を対象にした標記の講座を行うことになりました。同時に、藤澤は源氏物語をこう教えているということを示したいとの思いもありました。

多くの教科書では「桐壺」「若紫」「夕顔」「須磨」「御法(紫上の死)」そして宇治十帖などを取り上げています。確かにその部分は面白いのですが、教科書通り教えると切れ切れになり、これで生徒が源氏物語に興味を持つだろうかと思ひ、3人の女性(桐壺更衣・六条御息所・明石君)に焦点を絞って教えることにしました。

1 京都と源氏物語



平安京は794年桓武天皇によって都となりました。町づくりの決め手となったのが船岡山と言われていいます。真南に「内裏」「朱雀大路」そして「羅城門」が作られます。「東寺」だけは当時と変わっていません。現在の御所は1855年(安政2年)に建てられたものです。



紫式部の墓です。隣には閻魔大王の手伝いをしたという伝説のある小野篁の墓があります。いつ行っても花が供えられていました。堀川通りにあります。気をつけないと通り過ぎてしまいます。



御所の近くの「廬山寺」です。式部の邸宅があったと言われていいます。この「廬山寺」と道路を隔てた向かい側に「梨木神社」があり、京都三名水の一つ「染井の水」が湧いています。ただですが、料理人風の人たちが列を作っていて、なかなか順番が回ってきません。



滋賀県の石山寺の「源氏の間」です。式部はこの部屋から琵琶湖に映る月の光を見ながら物語の構想を練ったと言われていいます。奈良の長谷寺と同様に、当時の人々の信仰の場としてたいへん重要な場所でした。京阪石山寺からは、かなり歩くようになります。バス等を利用するのがいいと思います。

